

東日本大震災医療支援について

新潟市医師会長

佐野 正俊

被災地への医療支援

日医原中会長の提唱された JMAT が、全国的に見事な活動を展開したと思う。新潟県においても、渡部県医師会長のリードによって、県医師会と県当局一体となった支援活動が出来たのではないと思う。新潟市医師会では会員に呼びかけ5チーム、医師会役員で4チーム編成した。また、新潟市薬剤師会に協力をお願いし参加頂くことができた。しかし、開業医は休診しなければならず、参加の気持ちがあっても中々困難と思われた。この他、市内災害拠点病院や市中病院からも多くの JMAT が派遣され感謝申し上げる。

被災地での医療機関の被災状況が中々判らず、どこへどのような支援が必要かの情報が判然とせず、歯がゆさがあった。他山の石として、新潟でも的確な情報収集の通信手段の検討が求められると思う。

また、DMAT から JMAT への引き継ぎがうまく行われたか、JMAT から被災地の医療機関へ

の引き継ぎがどのように行われたかの評価が必要かと思われる。また、被災地における公的病院での活動が大きく取り上げられたが、民間病院での活動はどうだったのかについても検討して頂きたいと思う。

原発事故への対応

日医代議員会でも討論があったが、医師向けの放射線被害対応のマニュアルが必要と思う。柏崎原発事故対応としての防災計画見直しを、県医師会として当局へ要請して頂きたい。ヨウ素剤の備蓄についてどうするか考慮の必要があると思う。

原発事故の影響で計画停電の問題が起こった。在宅医療で心配されたが、大事なく幸いであった。救急医療の面で、2次輪番病院から当番日に当たると救急診療に差しつかえる問題提起があり、行政に電源車の配車について検討を依頼した。医療機関における自家発電の整備を検討して頂かねばならないかと思う。